

西播磨地域とひととはく

今年、8月の集中豪雨で西播磨地域が大きな被害にあいました。ひととはくは西播磨地域の方々にたいへんお世話になっています。私にとっては千種川流域の住民と市町職員が集まって発足した「千種川圏域清流づくり委員会」の立ち上げを2000年からお手伝いしたことが始まりです。委員会では、千種川のあり方、活用方法などを検討し、イベントなどを開催しながらゆるやかなネットワークをつくっています。今回の集中豪雨時にもそのネットワークが力を発揮しました。

また、キャラバン事業「ひととはくがやってくる」でもお世話になりました。「ひととはくがやってくる」は、研究員がチームを組み展示やセミナーを各地域で行うもので、地元の実行委員会とともに企画・実施することが特徴です。

2003年夏には上郡町立中央公民館で展示「川ガキの復活!!大好き!千種川」、2004年秋には、一宮町立歴史資料館と兵庫県立伊和高等学校で展示「いのまち、ふれて、感じて、さぐる」を担当しました。上郡町では岩田健三郎さんのイラストがはいった巨大な千種川地図、坂越の船大工の湊さんがつくった高瀬舟模型、上郡の子どもたちが千種川でとってきた魚などが会場狭くと並び、一宮町では、揖保川でとった魚、地元の山野草の実物や絵、伊和高校の歴史、小中学生の作品など、いずれも地元制作の展示が多く、どれだけ前向きに取り組んでいただいたかが伝わります。

最近3年は佐用町石井地域、佐用町昆虫館のある三河地域を担当していました。ひととはくは、このような西播磨地域との関わりからアウトリーチ事業を展開する上で重要なポイントをいくつも学びました。今年の水害を受けて、ひととはくは、NPO法人こどもと虫の会とともにいろいろな機関に呼び掛けて義援金を募り、佐用町昆虫館に対する支援をしています。また、お世話になった集落の調査など復興支援が始まっています。まだまだこれからですが、何かお役に立てればと思っています。

藤本真里(自然・環境マネジメント研究部)



上郡町立中央公民館に飾った千種川巨大地図(03夏)



自ら描いた植物画と実物を説明する地域実行委員(04秋)



揖保川で捕った魚を解説する地域実行委員(04秋)



千種川で捕った生き物を説明する上郡高校の学生(03夏)



地域実行委員の要請で垂れ幕を出してくれたジャスコ山崎店(04秋)



赤穂市坂越の船大工の湊さんがつくった高瀬舟模型(03夏)



水がどのように流れて来たか説明する佐用町奥海(おねみ)住民(09/8/16)

第5回 共生のひろばを開催いたします!



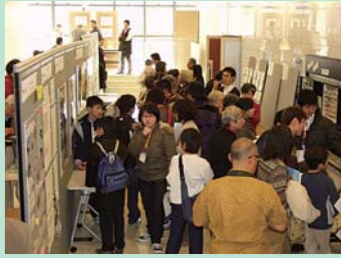
「共生のひろば」は今年で第5回を迎える、市民による地域の自然・環境・文化にまつわる研究と活動の発表会です。2008年度は46組の発表者と300人を超える聴講者が、互いに自分たちのパワフルな活動内容や研究者顔負けの研究内容を紹介、活発に意見交換を行いました。(詳しくは当館HP Topページ→出版物→単行本とお進みいただきご覧になれます。)



今年は口頭発表に加え、ポスター・作品を約2か月にわたって展示する「共生のひろば展」も実施します。市民のみなさんの地域に対する熱気に触れてみませんか? ぜひ聴講・観覧にお越しください!

橋本佳延(自然・環境再生研究部)

日時:<発表会>2010年2月11日(木・祝) 10:00~17:00(予定)
<展示会>2010年2月11日(木・祝)~4月4日(日) 10:00~17:00(最終日は15:00まで)
場所:<発表会>兵庫県立人と自然の博物館 ホロンピアホール
<展示会>兵庫県立人と自然の博物館 本館2F 企画展示室



聴講のお申込み・お問い合わせ:
「共生のひろば聴講希望」と明記の上、氏名、住所、TEL、FAX、E-mailをご記入の上、下記まで。ハガキ、FAXまたはE-mailでお申し込みください。(締め切りは2010年1月31日(日)です)

〒669-1546 兵庫県三田市弥生が丘6丁目
兵庫県立人と自然の博物館
生涯学習推進室 連携・アウトリーチマネージャー
電話:079-559-2003 FAX:079-559-2033
E-mail:seminar@hitohaku.jp



ひととはくフェスティバル'09を開催しました



11月1日(日)にひととはくフェスティバル'09を開催しました。天気予報は「くもりのち昼過ぎから雨」でしたが朝は心地よい秋晴れ。太陽の降り注ぐ暖かい中で準備を始めました。ところが天気はだんだん下り坂に。フェスティバルのはじまる10時頃には雲が空一面をおおい、とうとう屋前から雨が降ってきました。こんなあいにくの天気でしたが、1万4千人の方々には楽しんでいただきました。

今年のみ目イベント「君も発掘調査隊!丹波の恐竜化石を探しだそう」では、受付の1時間前から参加希望者が訪れはじまりました。参加者はおおよそ150人、ハンマーで石を割ってじっくりと化石を探し、なんと20点もの恐竜の骨片や小動物の骨の破片の化石を発見しました。

まんぶく屋台は恐竜ラボ前通路で開店。里山カレーにちまき、焼きそば、ジェラート...おいそような屋台が並ぶと、いつもは広い歩道が人でいっぱい。

芝生ステージはホロンピアホールの舞台上で実施しました。照明や音響効果が抜群でいつもより濃厚な雰囲気。「ゆるキャラ大集合」ではお気に入りのキャラクターとともに記念撮影しました。「恐竜疾走!コンテスト」に参加したボーイズ&ガールズの恐竜なりきりパフォーマンスはお見事。審査員の三枝主任研究員から「私は生きた恐竜を見たことがありませんが、今日恐竜を見たような気がしました。」とコメントがあったとか。

来年のフェスティバルは2010年11月7日(日)に開催します。どうぞお楽しみに!



半田久美子(自然・環境評価研究部)

シリーズ 身近な生物多様性

日本の亜熱帯化と生物多様性の変質



写真1

まだ私が琉球大学に勤務していた2005年の秋のこと、信じられない情報が飛び込んできた。宮崎県の一角でキノポリトカゲが増殖しているというのである。キノポリトカゲは琉球列島や台湾に分布する半樹上性のトカゲで、分布の北限は奄美大島となっている。奄美大島といえば冬、どんなに寒くても気温は6℃程度。無論、降雪も結氷もない。一般にこのような場所に生息する爬虫類は冬でも生理的に冬眠状態にはならず、実際、キノポリトカゲを含む琉球列島の爬虫類で冬眠する種は知られていない。しかるに宮崎県といえば、確かに比較的温暖な土地柄ではあるが、冬には霜も降り氷も張る地域と認識していた。したがってたとえ何らかの理由でキノポリトカゲが持ち込まれても、この場所で冬を越し繁殖するとは想像もできなかった。

2006年の春、情報を下さった宮崎県総合博物館の末吉豊文さんと、高校で教鞭をとる地元の爬虫類学者星野一三雄さんに連れられて現地を訪れた。確かにいる。緑味がかった体色、雄で頭胴長8cmを超える大きな体格などから、明らかに奄美諸島と沖縄諸島の固有亜種オキナワキノポリトカゲと思われるエキゾチックなトカゲ(写真1)がうじゃうじゃ。恐る恐る発見場所の周辺一帯を調べてみると、幸い生息して



発見された角竜類の化石

いよいよ丹波の恐竜化石・第4次発掘調査が始まります。

2006年8月に地元の足立冽氏・村上茂氏によって発見された丹波の恐竜化石は、その後の3度にわたる大がかりな発掘調査によって、前期白亜紀に生きていた竜脚類・ティラノサウルス形類の恐竜の全身骨格のうち、尾の部分から胴にかけての大部分を発掘することができました。保存状態は大変よく、日本で初めてとなる全身骨格発掘への期待がかかります。



第4次発掘直前の発掘現場

今年度も篠山川の水量が少なくなる冬季に発掘調査が行われます。今回の発掘でどんな化石が発見されるのか、今から楽しみです。今後もひととはくのホームページで最新情報を発信します。ご期待ください。

ホームページ(恐竜化石発掘の最新情報): http://hitohaku.jp/top/kaseki_news.html

○ これまでに発掘された部位

竜脚類は首と尾が長い大型の植物食恐竜です。体の大きさのわりには頭は小さく、世界で100数十種の竜脚類が報告されていますが、頭まで完全に発掘された恐竜はまれです。丹波では第1次発掘調査で、尾の部分の「尾椎」「血道弓」などの化石とともに頭の「脳函」とよばれる部位の化石も発見されています。さらに第2次発掘調査では「肋骨」「恥骨」のほか「環椎(第1頸椎)」「歯」も発掘され、第3次発掘調査では、「肋骨」のほか多数の「歯」が発掘されました。この「丹波竜」のほか、獣脚類や鳥脚類の恐竜たちの歯も多数見つかり、これまでに約8千点の化石が発掘され、「ひととはく恐竜ラボ」と「同・山南ルーム」で、クリーニング作業が続けられています。

○ ティラノサウルス形類の恐竜を食べきたティラノサウルス類!?

2009年6月に「ティラノサウルス類の歯発見」のニュースが新聞紙上を賑わしました。第3次発掘調査で発見された多数の歯の化石の中から、ティラノサウルス類の歯の化石が見つかったのです。

ティラノサウルスといえば、白亜紀の終わり頃には体長13mにも達する史上最大級の肉食恐竜ですが、まだ前期白亜紀には体長は約5mほどの大きさであったと考えられています。「丹波竜」を食べきたティラノサウルス類の恐竜!??この恐竜にも『●●竜』といった愛称がつけられる日がくるかもしれません。

○ 『篠山層群』で角竜類の頭骨の一部が発見されました!!

2009年11月には、「篠山市で原始的な角竜類の化石の発見」が全国ニュースでも流れました。トリケラトプスに代表される角竜類のうち基盤的なネオケラトプス類の化石の発見です。これで「篠山層群」から、竜脚類、獣脚類、鳥脚類、角竜類の恐竜化石、さらには哺乳類、トカゲ、カエルなどの小動物の化石が発見されたことになり、当時の環境や動物たちの生態系を考える上では貴重な資料となります。

平松紳一(恐竜タスクフォース&生涯学習課長)

あの人に会いたい~ご夫婦で発掘体験調査員



吉竹久男さん
(61歳・丹波市在住 写真左)

吉竹恵子さん
(55歳・丹波市在住 写真右)

今回は、ひととはく発掘体験指導員を夫婦でしてくださっている吉竹さんご夫妻に会いに丹波市山南町のご自宅へお邪魔しました。ご自宅から調査へ向かうみんなの姿がよく見えるくらい、発掘現場から近いところにお住まいです。

どうして化石を判別できるようになったんでしょうか。お2人は丹波の恐竜化石の発掘現場で2次発掘調査から発掘ボランティアとして参加。3次発掘調査にもご参加いただき、ひととはくより発掘体験指導員として認定されました。発掘調査は、ご夫婦で参加。家に帰ってからも共通の話題である「発掘調査」について話をして盛り上がるそうです。「発掘調査はめっちゃめっちゃ楽しくって、はまってしまった。石を割ったときのときめき☆、って言ったら。」という恵子さん。お仕事で発掘ボランティアに行けない時は「くやし〜〜。」と思うそうです。久男さんは、お仕事の夜勤明けの足で発掘現場にボランティアとして参加されるほど、パワフルな方。発掘作業の楽しみもさることながら、いろんな人との出会いも大きな宝となっています。恵子さんは、そんな発掘作業を共にしてきた仲間を「恐竜ファミリー」と呼んでいます。発掘ボランティアとしての作業で習得した、化石の有無が分かる技能をいかして、石割体験の指導をされています。「いろんな人との出会いが楽しいし、指導員に認定してもらっていても自分自身の勉強をしているようなものだ。」とおっしゃる2人。

「実際の発掘ボランティアは20歳以上でないといけないですが小さな子どもにもぜひ体験してほしいです。みなさん、一度石割りをして化石を探してみませんか? 丁寧に指導しますよ。」と久男さん。恵子さんは「こんなすごい化石が出た、この発掘現場を見に来てください。」

お休みの日には、2人で山へ化石を探しにいらっやるとか。本当に仲の良い素敵なお夫婦で、うらやましい限りです。

小林美樹(生涯学習課)



発掘現場で

※発掘体験指導員って? 岩石中の化石の有無を判別できる技能をひととはくが認定し、教育活動における石割等の指導をおこなう方です。